

千葉市感染症発生動向調査情報

2014年 第6週 (2/3-2/9) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		6週	5週	4週	3週
小児科		18	18	18	18
眼科		5	4	5	4
インフルエンザ		28	28	28	28
基幹定点		1	1	1	1

上段:患者数

下段:定点当たりの患者数

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	千葉市					千葉県
		注意報	2/3-2/9	1/27-2/2	1/20-1/26	1/13-1/19	1/27-2/2
			6週	5週	4週	3週	5週
小児科	RSウイルス感染症		3	5	9	5	28
	咽頭結膜熱		1	2	5	4	35
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		32	47	61	40	433
	感染性胃腸炎		178	236	276	232	1,576
	水痘		19	13	21	16	96
	手足口病		1	1	2	2	2
	伝染性紅斑		1	2	4	5	23
	突発性発しん		15	9	13	16	49
	百日咳		0	1	0	0	4
	ヘルパンギーナ		0	0	0	0	0
	流行性耳下腺炎		2	1	5	3	56
インフル	インフルエンザ(高病原性鳥インフルエンザを除く)	◎★★★	931	877	709	273	9,047
			33.25	31.32	25.32	9.75	42.28
眼科	急性出血性結膜炎		0	0	0	0	0
	流行性角結膜炎		0	1	4	0	18
			0.00	0.25	0.80	0.00	0.56
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	0	0	0	0
	無菌性髄膜炎		0	1	0	0	2
	マイコプラズマ肺炎		0	0	0	0	0
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0	0	0	0	0
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		1	3	0	0	9
			1.00	3.00	0.00	0.00	1.00

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(9件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	30歳代	IGRA検査	結核	女性	90歳代	胸水ADA値の上昇
結核	男性	60歳代	IGRA検査等	A型肝炎	男性	10歳未満	血清IgM抗体の検出
結核	女性	10歳未満	臨床診断	急性脳炎	女性	10歳未満	高熱及び中枢神経症状
結核	女性	30歳代	IGRA検査	梅毒	女性	20歳代	血清抗体の検出
結核	女性	40歳代	IGRA検査	-	-	-	-

・結核6件(25)、A型肝炎1件(2)、急性脳炎1件(4)、梅毒1件(4)の報告があった。

()内は2014年累積件数 ※ 累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第6週のコメント

<インフルエンザ> 前週より増加し33.25となった。依然として流行発生警報開始基準値(30.0/定点)を上回っている。過去10年の同時期と比べると多め。

トピック

<インフルエンザ>

2014年の全国レベル第4週現在は、過去7年間の同時期と比べると多い状況となっています。年齢階級別では1歳から9歳までの増加率が大きく、6歳、7歳、5歳の順に多くなっています。都道府県別では、沖縄県、大分県、宮崎県の順で発生が多く見られます。千葉県は依然として流行発生警報開始基準値(30.0/定点)を上回っており、全国レベルより多くなっています。千葉市の第6週現在は、前週より増加し33.25となり、依然として流行発生警報開始基準値を上回っています。過去10年間の同時期と比べると多めとなっています。年齢階級別では、1年代当たりで6歳、8歳、7歳の順に多くなっています。区別の発生状況は、中央区、稲毛区及び緑区で流行発生警報開始基準値(30.0/定点)を上回っており、中央区は前週より減少しましたが最多となっています。同区では1年代当たりでは8歳が最も多くなっています。今シーズンの型別迅速診断結果の累積は、A型が57.6%、B型が33.4%で、B型が3割以上を占めています。流行シーズンであることから、感染防止の注意が必要です。

ワクチンは、接種してから効果が表れるまで2~3週間かかるとされていることから、早目の対策を心がけましょう。

予防として、家庭内のみならず、外出先においてもこまめに手を洗うなど基本的な予防の励行のほか、十分な栄養と睡眠をとるなど普段から免疫力を高めておくことも大事です。発症した場合は、周囲へ感染を広げないように、無理に学校や職場へ出ることを控え、早めに受診してください。また、マスクを着用する等の咳エチケットを守ることが重要です。

<咳エチケット>

- 咳・くしゃみが出たら、他の人にうつさないためにマスクを着用しましょう。マスクをもっていない場合は、ティッシュなどで口と鼻を押さえ、他の人から顔をそむけて1m以上離れましょう。
- 鼻汁・痰などを含んだティッシュはすぐにゴミ箱に捨てましょう。
- 咳をしている人にマスクの着用をお願いしましょう。

